

7 番	朝井 賢次 議員	
質問タイトル（大項目）	質問項目（中項目）	具体的質問内容（小項目）
1 学校給食施設の整備について 【質問趣旨】 学校給食は児童生徒の心身の健全な育成のために非常に重要であり、それを日々調理する施設の重要性は言うまでもない。しかしながら本市の学校給食施設の大半が昭和の時代に建設されたものであり、近年は老朽化が著しく、高温下の調理環境や現行の衛生管理基準（汚染・非汚染区域の分離等）への対応の限界など、喫緊の課題を抱えている。未来を担う子どもたちに安全安心でおいしい給食を安定的に提供するためには、新給食センターの建設および単独調理校の効率的な集約化を進める新たな整備計画の着実な実行が不可欠であると考え。そこで将来計画策定における新給食センターの整備方針の位置づけ、建設候補地の選定基準、財政効果の見通し等未来へ続く持続可能な学校給	（1）現行施設の課題認識と新センター整備の必要性について （2）着実な事業推進に向けたスケジュールと財源確保	①給食センター及び単独調理校の施設のほとんどが昭和40年代に建設され、近年は老朽化に加え、夏の酷暑における調理室の作業環境、現行の衛生管理基準の対応に限界がきていると考えるが、現状を踏まえての新センター整備の緊急性と必要性についての認識を伺う。 ②近年は建設資材費の高騰や人件費の上昇、解体費、各単独校施設の維持管理更新等、様々なコスト上昇が顕著であり、今後も下がることは考えにくい。予算面から考えた場合、新センターの早期建設の必要性をどう認識しているか伺う。 ③集約化によって見込まれる運営費削減効果が示されているが、新センター整備を行うことで、想定されるランニングコストについての認識を伺う。 ①新センター整備に向けて、可能性と優先順位を検討していく場合、建設候補地の選定、PFI 手法や民間委託の導入可能性、公適債、交付金等の有利な国庫補助制度など様々な調査検討事項があるが、現状どのような議論がなされているか伺う。 ②移転場所の状況やPFI 事業の適用などにより事業スケジュールは変わっていくとのことであるが、理由を伺う。 ③令和13年運営開始という想定スケジュールで進むと理解して良いか伺う。 ④新センター整備を検討する場合、大規模災害時における避難所等の炊き出し機能や非常用電源、給水設備の確保等の機能を備える考えはあるか伺う。 ⑤新センター整備に向けて、学校教育、財政、都市計画など多岐にわたる課題を明らかにするため、専属担当者の配置など全庁的な検討、推進が必須だと考えるが、体制をどのように構築していくのか伺う。

備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。

2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。

3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

7 番	朝井 賢次 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
食施設の在り方についての見解を確認し、実現に向けた全庁的な推進体制と具体的な取り組みを伺う。	(3)給食の品質・安全対策および食育について	①給食施設の集約化・大型化を推進していく場合、地域食材の活用（地産地消）やアレルギー対応、単独校調理ならではの食育効果等、現在の取り組みをどのように担保していくのか伺う。 ②給食施設の集約化・大型化を推進していく場合、配送時間の増加や規模拡大に伴う異物混入・食中毒リスクが懸念され、これは建設候補地の選定についても関係してくると考えるが見解を伺う。 ③小中学校の学校給食無償化が進んでいく今後、本市の特色として「地元食材を使った日本一おいしい学校給食」を確立し市内外に発信していくことは、児童生徒の心身の健全育成や郷土愛の醸成、市外の方への本市の教育の魅力発信等、様々なプラス効果をもたらすと考えるが見解を伺う。 ④集約後の想定される運営費削減効果は「地元食材を使った日本一おいしい学校給食」を目指す上で有効なプロセスであると考えます。本市の未来を考えた時、新センター整備の議論は様々な本市の課題の中で優先順位をあげていくべきと考えますが市長の見解を伺う。

備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

7 番	朝井 賢次 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
2 令和9年度2学期に中学校の部活動地域展開はどこまで進んでいるか 【質問趣旨】 本市では、持続可能な部活動環境の構築と教員の負担軽減を目指し、段階的な部活動の地域展開を進めている。令和6年度から課題整理や実験的取り組みが行われてきたが、令和9年度2学期からは、平日と休日を連動させた新たな運用の開始を予定している。部活動地域展開を円滑に進めていくためには、生徒の活動機会の確保や保護者の理解、地域指導者の確保等、様々な課題があり、特にこの1年は重要な局面になってくる。 そこで令和9年度2学期以降に成果を出していけるよう、現状、今後のスケジュール及び本市が目指す中学校の	(1) 段階的移行に向けた進捗とスケジュールについて (2) 指導者の確保と育成体制 (3) 地域の団体及び民間事業者との連携、協働 (4) 持続可能な運営体制と保護者負担の考え方	①令和7年、8年を課題整理期間、令和9年度2学期以降に地域連携実施としているが、推進の停滞を防ぎ、着実に段階的展開を進めていくための具体的な取り組み状況と今後のロードマップについて伺う。 ①地域展開の成功には安定した指導者の確保が不可欠である。スポーツ、文化団体や民間企業、地域人材からどのように指導者を掘り起こし（発掘・確保）、育成・研修を行っていくのか伺う。 ②指導の一貫性を担保するため、「平日・休日の指導一貫性の確保」や「指導者・教員の関わり」についての整理が必要であり、担当課も課題整理事項にあげている。技術指導のみならず、生徒のメンタルケアや安全管理も含め、教員と外部指導者の間で指導方針の一貫性を保つためのルールづくりについて見解を伺う。 ①将来的な地域展開として総合型地域スポーツクラブや民間事業者、地域学校協働本部など多様な主体が運営を担うとしている。生徒に対し魅力的な活動環境を構築するため、市内の既存団体や民間事業者との現在の状況と連携体制をどのように構築していくか伺う。 ①地域展開後も部活動を持続可能な活動としていくため、適正な運営費用や利用料の設定、困窮者世帯への配慮が重要となる。受益者負担と公費投入のバランス、並びに費用徴収・管理の仕組みをどのように検討しているか伺う。

備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。

2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。

3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

7 番	朝井 賢次 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
部活動の在り方を伺う。	(5) 学校施設の活用について (6) 中総体・各種大会・コンクールへの参加資格と引率体制について (7) 実施と検証 (8) 教員の働き方改革推進と「関わりたい教員」への機会確保について	①今後予想される少子化の中で、生徒の選択肢を維持するためには、拠点校方式や地域グラウンド・体育館の相互利用が有効である。学校施設開放の円滑化や、複数校の生徒が集まる拠点校方式における移動時の安全確保・交通手段の課題にどのように対応していくのか伺う。 ②平日の夕方以降や休日に拠点校で活動する際、けがや事故、不審者対応、突発的災害時のリスク管理や責任の所在をどのように整備していくのか伺う。 ①地域クラブや地域団体に移行した後も、生徒が目標とする中総体や公式大会等に円滑に参加できるよう、大会当日の引率体制（教員・外部指導員等の役割分担）をどのように想定しているか伺う。 ②大会やコンクールは参加者が他の自治体も関わってくるが、大会主催者や近隣自治体との協議は今後どのように行っていくのか伺う。 ①現在の取組みを経てどのような種目・学校・地域からトライアルを行い、得られた課題や成果をどう反映し全体へつなげていくのか伺う。 ①部活動地域展開という事業の目的の一つである「教員の新たな働き方」を推進し負担軽減を図る一方、兼業許可を得て引き続き指導に関わりたい意欲ある教員の希望をどう叶え、地域連携の中でどう活かしていくつもりか伺う。

備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。